

名前

書くこととすることをはっきりさせ、段落を考えて、文章を書くことができるようにしましょう。

① 、サンドイッチ用のパンのかた面めんだけに、マーガリンをぬります。できるだけムラのないように、ていねいにぬります。

② 、四角や三角など、食べやすい大きさに切って、お皿おわんにもりつけたら完成かんせいです。

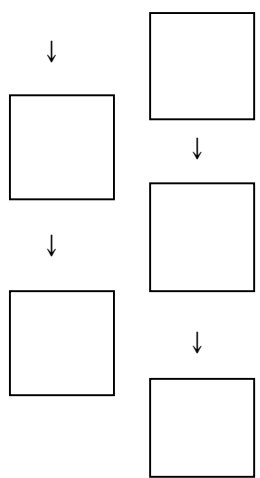
③ みんな、おいしそうに食べてくれたので、とてもうれしかったです。また作って、家族かぞくを喜よろこばせてあげられたらいいな、と思いました。

④ 昨日きのうは日曜日だったので、おうちの人のかわりに、お昼ひるごはんを作りました。親せきの人から、たくさん野菜さいをもらったので、その野菜をたっぷりはさんだサンドイッチにしました。これから、作り方をしようかいます。

⑤ 、レタス、きゅうり、トマトを水できれいにあらいます。レタスは食べやすい大きさにちぎります。きゅうりは、うすくななめに切ります。トマトは、五ミリメートルくらいの輪切わりにします。トマトは、皮をむくと食べやすいです。それらを、マーガリンをぬったパンにはさみます。

★上のメモをよく読んで、次の問題に答えましょう。

一 上のメモは、日曜日にサンドイッチを作ったときのことを説明する文章を書くためのものです。文章を正しく清書せいするには、どの順番にしたらよいでしょうか。ならばかえて、□に数字を書きましよう。



メモの内容をよく読むと、清書の順番じゆんのヒントになる言葉がたくさん出てくるよ!



二 、に合う言葉を、次のうちうちから選えらびましよう。

- 一
- 二
- 三

次に・最後に・まず

一 上のメモは、日曜日にサンドイッチを作ったときのことを説明する文章を書いた  
 めのもの。文章を正しく清書するには、どの順番にしたらいでしょうか。な  
 らべかえて、□に数字を書きましょう。



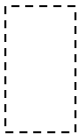
☆ 文章は、「はじめ」「なか」「おわり」の三つできています。

「はじめ」…筆者が書きたい話題についてふれています。

「なか」…話題について、くわしく書かれています。つなぎ言葉（**を**）使ったり、だ  
 ん落をつけたりすると、よりわかりやすくなります。

「おわり」…筆者が、話題について思っていることや考えていることについてまとめ  
 ています。

二 □一～□三に合う言葉を、次の



の中から選びましょう。

□一… **まず**

□二… **最後に**

□三… **次に**



☆ 言葉と言葉や、文と文をつなぐはたらきをする言葉を、つなぎ言葉といいます。つな  
 ぎ言葉をつかうと、文の意味がはっきりします

## つなぎ言葉の種類

つなぎ言葉には、いろいろな種類があります。

【例】しかし **けれども** **でも**は、前の言葉や文とちがう

「こと」を言っている時に使います。

・ **そして** **それから**は、前の言葉や文と同じことが続

いている時に使います。

日記や作文など、文章を書く時に使えるようになりましょ  
 う。



「じっくり しっかり  
 くり返し」の6ページを  
 参考にしてください。





つながりの「よ、ほ、正しく使い方はよさげなびんご。

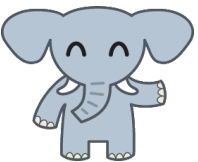
- 一 ① ☆ **だから** ↓ 前のことながら、後のことながらの理由になっているとき
  - ☆ **しかし** ↓ 前のことごと、反対のことごとを後にしつなげるとき
- 二 ② ☆ **それから** ↓ 前のことからの後に、後のことごとをしつづけるとき
- 三 ① ☆ **なぜなら** ↓ 前のことからの理由を、後にしつづけるとき
- 四 ② ☆ **それなら** ↓ 前のことごとをうけて、後のことごとを決めるとき
  - ☆ **それとも** ↓ 前のことごと、後のことごとのどちらかをえらぶとき
- 五 ② ☆ **すると** ↓ 前のことごとが原因になって、後のことごとがへんか変化するとき
  - ☆ **それでも** ↓ 前のことごとから期待されたことごと、反対のことごとが後に

おぼえしおぼえしやうー



「よ、ほ、正しく使い方はよさげなびんご。」  
 「よ、ほ、正しく使い方はよさげなびんご。」  
 つなぎの「よ、ほ、正しく使い方はよさげなびんご。」  
 の意味がはつきりします。

- ☆ **しかし** **けれども** **でも**は、似た意味のつながりです。
- ☆ **そして** **それから**は、似た意味のつながりです。



ほかにも、つながりの「よ、ほ、正しく使い方はよさげなびんご。」  
 日記や作文で、つながりの「よ、ほ、正しく使い方はよさげなびんご。」  
 を使ってみよう。

「じっくり しっかり くり返し」の  
 7ページを参考にしてください。

書「つ」とする「と」ときをはっきりさせ、段落を考えて、文章を書くことができるようにしよう。

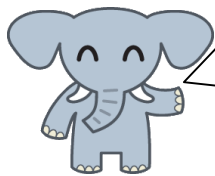
つなぎの「と」ばを使って書きましよう。

★ 例題にならって、短い文章を作りましよう。

例題

● けしゴムをなくしてしまった。しかし、  
〈解答例〉 けしゴムをなくしてしまった。しかし、友だちがかしてくれた。

文をつなぐことばを使  
うと、伝えたいことがはっ  
きりつたえられるよ。



一 おかしを買いに行った。けれども、

けれど、

二 ケーキを食べた。そのうえ、

そのうえ、

三 ごはんを食べ終わった。そこで、

そこで、

四 とびらが開いた。すると、

すると、

五 おせんべいがいいですか。それとも、

それとも、



つなぎの「じゅぽ」を使って書きまじよう。

### 〈答えの例〉

一 おかしを買いに行った。けれども、お店はしまっていた。

☆ けれども＝はんたいの意味をくわえる。おかしを買いにいつでも、買えなかったのだね。

二 ケーキを食べた。そのうえ、アイスクリームも食べた。

☆ そのうえ＝「おまけに」の意味。ケーキだけでなく、アイスクリームも食べたんだね。

三 ごはんを食べ終わった。そこで、テレビを見た。

☆ そこで＝「そついうわけで」とおなじ意味。食べ終わったから、テレビを見たんだね。

四 とびらが開いた。すると、見たこともないたからの山がそこにあった。

☆ すると＝「そのとき」とおなじ意味。とびらが開くと、たからが見えたということ。

五 おせんべいがいいですか。それとも、クッキーがいいですか。

☆ それとも＝どちらかえらぶときに使う。「二」では、おかしのおしゆるいを入れよう。

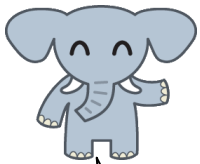
おぼえしおきまじよう！



「つなぎの「じゅぽ」は、文と文の関係をはつきりさせたり、じゅぽの順序をあらわしたりします。

つなぎの「じゅぽ」を使った文作りはうまくできたかな？

つなぎの「じゅぽ」はたらきを考えて、おもしろい文を作ってみてくださいね。



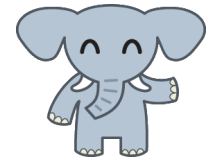
名前

Blank box for writing the student's name.

書「いつとすることをはっきりさせ、だん落を考えて、文章を書くことが出来るようにし  
ましよう。

文の終わりをどうえましよう。

文を書くときは、文の終  
わりの形をどうえましようね。



★ 次の文の終わりを「である・だ（た・だった）」にそろえて全文を書きましよう。

例題

● 今日は雨だ。だから遠足は中止です。

〈解答例〉今日は雨だ。だから遠足は中止だ。

一 昨日、お母さんと買い物に行った。そこで、おかしを買ってもらいました。

Blank box for writing the answer to the first example.

二 食べようと思っていたケーキがない。お兄ちゃんが食べたにちがいありません。

Blank box for writing the answer to the second example.

三 ドッジボールで、後ろから当てられてしまった。とてもくやしかったです。

Blank box for writing the answer to the third example.

四 となりの席の子があくびばかりしている。きっと夜ふかしたのでしよう。

Blank box for writing the answer to the fourth example.



## 文の終わりをどうしよう！

「じっくり しっかり くり返し」の6ページを参考にしてください。

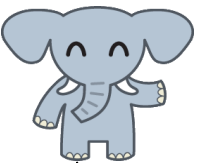
- 一 きのう、お母さんと買い物に行った。そこで、おかしをかってもらった。  
☆「～ました」→「～った」にかわる。
- 二 食べようと思っていたケーキがない。お兄ちゃんが食べたにちがいない。  
☆「ありません」→「ない」にかわる。
- 三 ドッジボールで、後ろから当てられてしまった。とてもくやしかった。  
☆「くやしかったです」などの気持ちをあらわす「とばは、」です「を」をどうう。
- 四 となりのせきの子があくびばかりしている。きつとよふかしたのだろう。  
☆「でしょう」「～だろう」「～にかわる。」



## おぼえておこう!!

文章を書くときは、文の終わりを、ていねいな言いかた「です」「や」「ます」「か、  
言い切りの形」「する」「や」「だ」で、そろえるルールがあります。

- 「～しました。」⇔「～した。」
- 「～します。」⇔「～する。」
- 「～です。」⇔「～だ。」
- 「～してしまいました。」⇔「～してしまっ。」
- 「～する(した)でしよう。」⇔「～する(した)だろう。」
- 「ありません。」⇔「ない。」⇔「ありませんでした。」⇔「なかつた。」



ほかにどんな文の終わり方があるかな。  
文章を書くときは、いっつも気をつけてみよう。



名前

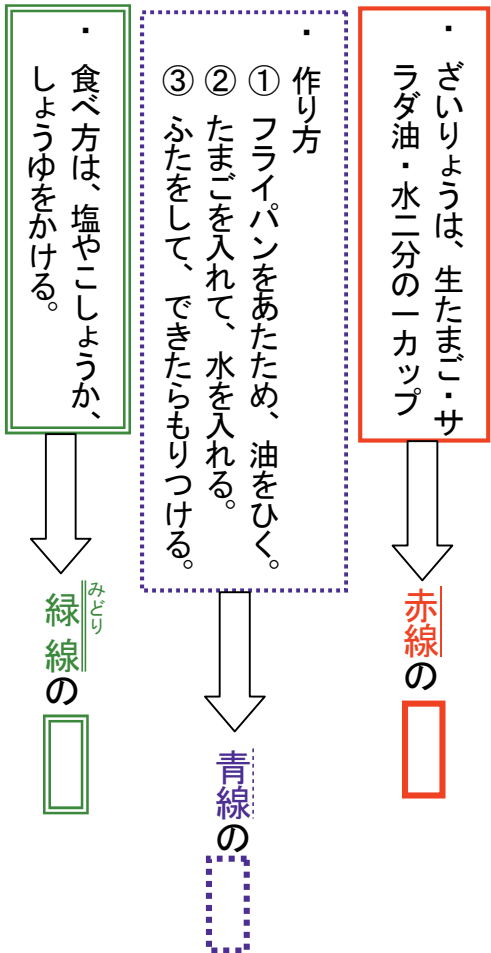
書「つ」とする「と」をはっきりさせ、段落を考えて、文章を書くことができるようにしよう。

**だん落に分けて書きましよう。**

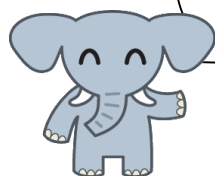
★ つぎの文章は、一つのだん落らくになっています。

おいしい目玉やきの作り方を説明します。材料は、生たまごせい・サラダ油あいら少々、水二分の一カップです。まず、フライパンをあたたためて油をひきます。油がフライパンになじむように、フライパンを回してゆするのがこつです。そして、たまごをわってフライパンに入れます。それから、水を入れてふたをしてしばらく待ちます。半じゆくにした場合は、黄身みが固まりかたすぎないように早めに火を止めます。形をくずさないようにお皿にもってでき上がりです。食べる時に塩しおやこしようにふったり、しょうゆをかけたりするとおいしく食べられます。みなさんも作ってみてください。

一次の三まいのカードは、右の文章を書いたときのメモです。それぞれのカードの内容が書かれているところをさがして、でかこみましょう。



意味のまとまりごとに、だん落に分けて書いてみましょう。



二 右の文章の「書き出し」の文と「結び」の文をでかこみましょう。

三 「書き出し」「赤」「青」「緑」「結び」の順に、だん落に分けて清書しましょう。

用紙は次のシートにあります。





## だん落に分けて書きましよう。

「じっくり しっかり  
くり返し」の 6ページ  
を参考にしてください。

おいしい目玉やきの作り方を説明します。

材料は、生たまごとサラダ油少々、

水二分の一カップです。

まず、フライパンをあたためて油をひきます。油がフラ

イパンになじむように、フライパンを回してゆするのがこつです。そして、たまごをわってフライパンに入れます。それから、水を入れてふたをしてしばらく待ちます。半じゅくにした場合は、黄身が固まりすぎないように早めに火を止めます。形をくずさないようにお皿にもってでき上がりです。

食べる時に塩やこ

しょうをふったり、しょうゆをかけたりするとおいしく食べられます。

みなさん

も作ってみてください。



おぼえておきましよう！

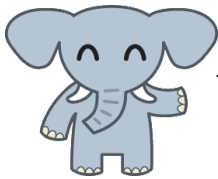
## だん落について

- 1 だん落は**意味のまとまり**です。いくつかの文が集まって一つのだん落になります。
- 2 だん落は、**時・場所・じゅんじよを表す言葉**などで分けます。
- 3 だん落に分ける時は、**行をあらため(改行)**、**一字下げ**て書き始めます。

☆ 青線のメモカードと作文をくらべると、作文はカードよりもくわしくなっているのがわかります。カードには書きたいことを短くメモをし、作文では読む人に分かりやすく説明するように書くことによいでしょう。

	す	よ		で	く	り	す	か	た	パ	す		の		
み	。	う	食	す	ず	す	。	ら	ま	ン	。	ま	一	材	お
な		ゆ	べ	。	さ	ぎ	半	、	ご	を	油	ず	カ	料	い
さ		を	る		な	な	じ	水	を	回	が	、	ッ	は	し
ん		か	時		い	い	ゆ	を	わ	し	フ	フ	プ	、	い
も		け	に		よ	よ	く	入	っ	て	ラ	ラ	で	生	目
作		た	、		う	う	に	れ	て	ゆ	イ	イ	す	た	玉
っ		り	塩		に	に	し	て	フ	す	パ	パ	。	ま	や
て		す	や		お	早	た	ふ	ラ	る	ン	ン		ご	き
み		る	こ		さ	め	い	た	イ	の	に	を		と	の
て		と	し		ら	に	場	を	パ	が	な	あ		サ	作
く		お	よ		に	火	合	し	ン	こ	じ	た		ラ	り
だ		い	う		も	を	は	て	に	つ	む	た		ダ	方
さ		し	を		っ	止	、	し	入	で	よ	め		油	を
い		く	ふ		て	め	黄	ば	れ	す	う	て		少	説
。		食	っ		で	ま	身	ら	ま	。	に	油		々	明
		べ	た		き	す	が	く	す	そ	、	を		、	し
		ら	り		上	。	か	ま	。	し	フ	ひ		水	ま
		れ	、		が	形	た	ち	そ	て	ラ	き		二	す
		ま	し			を	ま	ま	れ	、	イ	ま		分	。

だん落に分けて書きましょう。  
清書用紙



☆「、」や「。」が一番上のマスになる時は、一番下のマスの文字にそえて書きます。

名前

書くこととすることをはっきりさせ、段落を考えて、文章を書くことができるようにしましょう。

一 次の文章は、西山さんが「矢印」について調べたことをほう告した文章です。□の中に、当てはまる言葉を□の中からえらんで書きましょう。

ある日の下校のとき、まわりを見てみると、たくさんの矢印がありました。それで、矢印を集めて、どんなものがあるのか□。

集めた矢印は、全部で三十です。はじめは、形で分けようといがあることに□。でも、説明を読み直しているうちに、はたらきのちがいが分けることにしました。□。それで、はたらきのちがいで、矢

①は、「こちらの方向ですよ。」と、方向を教えるものです。一番たくさんありました。

②は、「ここですよ。」と、場所などをさして教えるものです。

①より近い所で、はっきりと場所を教えているかんじです。ドアの□。今度は、家の中の矢印もさがして、集

ちよっとしたきっかけで始めたのですが、調べてみるとおもしろくなる□。今度は、家の中の矢印もさがして、集めてみたいと思います。

考えました □ 分かりました □ 調べることにしました □ 気がつきました □

二 西山さんは、事がらごとに段落を分けて書きました。西山さんの文章の組み立ては、次のうちのどれですか。あてはまる方に○をつけましょう。

- ( ) 調べたきっかけ↓感想↓調べてわかったこと
- ( ) 調べたきっかけ↓調べてわかったこと↓感想
- ( ) 調べてわかったこと↓調べたきっかけ↓感想

三 調べたきっかけを 赤線の□、調べて分かったことを 青線の□、感想を 緑線の□で囲みましょう。